

8
2018

三重病院

ニュースレター

news letter vol.228



- 01 川崎病
〈健康フェスタ〉公開糖尿病教室のお知らせ
- 02 「臨床研究部からのお便り」-第8回-
5病棟の生活のひとコマ③
- 03 七夕風船リリース
「やまばとギャラリー」情報コーナー
通所支援事業の夏!
異動のごあいさつ
- 04 Medical Safety Letter 安全便り〈8月〉
外来からのお知らせ／外来診察のご案内

川崎病

皆さんは川崎病という名前を聞いたことがあるでしょうか。現在では年間15,000名ほどの子供がかかる病気です。小児科医にとっては非常にありふれた病気ですが、成人発症はほとんどないため、内科医では診断が難しい病気となります。

川崎病の診断基準は以下の通りです。

主要症状

- 1 5日以上続く発熱(ただし、治療により5日未満で解熱した場合も含む)
 - 2 両側眼球結膜の充血
 - 3 口唇、口腔所見:口唇の紅潮、いちご舌、口腔咽頭粘膜のびまん性発赤
 - 4 不定形発疹
 - 5 四肢末端の変化
〈急性期〉手足の硬性浮腫、掌蹠ないしは指趾先端の紅斑
〈回復期〉指先からの膜様落屑
 - 6 急性期における非化膿性頸部リンパ節腫脹
- 6つの主要症状のうち5つ以上の症状を伴うものを本症とする。
(川崎病診断の手引きより)

簡単に言えば、熱が続いて、首や手足が腫れて、色々なところが赤くなる病気です。

この病気が一番怖いところは、心臓に後遺症を残すことがある事です。心臓は全身に血液を送る臓器ですが、心臓自身にも血液を送る必要があります。心臓が心臓自体に血液を送るための血管を冠動脈といいますが、この冠動脈の一部がコブのように膨らむ「冠動脈瘤」という後遺症があり、これが残ると心筋梗塞の危険性が非常に高まります。

無治療の場合、約4人に1人がこの後遺症を残すと言われており、治療の目的は冠動脈瘤を残さない事になります。

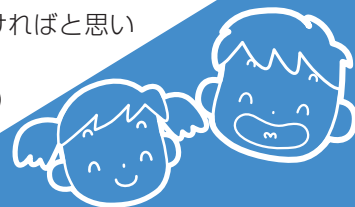
現在最も行われている治療は「大量免疫グロブリン療法」と呼ばれるものです。免疫グロブリンは抗体とも呼ばれ、血液中にあるたんぱく質で、外から入ってきた細菌やウイルスを攻撃する働きをするものです。この免疫グロブリンを人の血液から精製して薬にしたものを、半日から1日かけて点滴します。以前に使用されていた量よりも多い量を注射するため、「大量免疫グロブリン療法」と呼ばれています。この治療法が確立してから、冠動脈の後遺症は2%前後にまで低下しています。

川崎病の本態は血管の炎症で、中くらいの大きさの動脈に炎症が起きる病気です。心臓の冠動脈も中型動脈の一つです。しかし、なぜ川崎病が起きるかについては、現時点で定まった説はありません。実際の医療現場にいると、川崎病は流行するという現象を認めるため、何らかの感染症や環境因子が関与している可能性は高いように思われます。

原因が分かっていないのと同様に、どのような人に冠動脈瘤が出来るかも分かっています。しかし、炎症が強ければ強いほど、炎症の期間が長ければ長いほど、冠動脈瘤を起こす危険性が高くなるという事実があるため、なるべく早く(具体的には10日以内に)炎症を鎮める事が大切になってきます。

現在当院では年間40~50名の川崎病患者さんが入院されています。先に書きました通り、小児科医であれば川崎病を疑うことは比較的簡単ですので、子供さんが似た症状を来したときには、近くの小児科でご相談いただければと思います。

(小児科 篠木 敏彦)



健康フェスタ 公開糖尿病教室のお知らせ

「知って得する、ミニ知識!!」

【日時】平成30年9月9日(日)
10時00分~13時30分
【場所】神経内科外来

【担当】
参加費
無料
です

時間	担当	テーマ
10:30~	〈医師〉橋本 礼	こんなときどうする?糖尿病
11:00~	〈薬剤師〉伊藤 大輔	薬との上手なつきあいかた
11:30~	〈検査技師〉宮岡沙希子	血液検査で何がわかるの?
12:00~	〈看護師〉渡邊 美佳	『足』から健康チェック!フットケア
12:30~	〈栄養士〉青山 裕一	美味しくいきいきバランス食

当日、会場までお越しください。1テーマ15~20分のミニレクチャーで出入りは自由です。どなたでもお気軽にご参加ください!